

## 12. 子宮頸癌で同時放射線化学療法を受ける患者の食事とストレスへの介入

白井 玲子, 加藤 康子, 登丸真由美

井上エリ子 (群馬大医・附属病院・看護部)

【目的】 当院では化学療法を受ける患者を対象とした特別な献立はなく, 患者の望む食事が提供できていないのではないかと感じていた. 化学療法中の患者が食事に対し, できるだけストレスを感じずに少しでも食事が摂取できるように援助したいと考えた. そこで, 子宮頸癌, 同時放射線化学療法を受ける患者の食事の摂取状況と, 食事に対するストレスを明らかにし, 食事への効果的な看護介入を検討した. 【方法】 子宮頸癌で同時放射線化学療法を受ける患者 1 名に, 治療開始日から食事の摂取状況とストレスについて独自のシートを用いて記入してもらい, そのシートを元に患者と食事内容について相談した. 【結果】 嘔気・嘔吐がなくても味覚や嗜好の変化により, 食事に対しストレスを感じていることが明らかになった. 【結語】 看護師は細かく食事について話を聞くことで, 味覚や嗜好の変化を把握することができ, その変化に対し早期に対応することでストレスを最小限に抑えることができる.

## 13. 口腔ケアにおけるチーム連携の報告—第 1 報—

関 美幸 中島 陽子 井上エリ子

(群馬大医・附属病院・看護部)

武者 篤 田巻 倫明 塩谷真理子

野中 哲生 (群馬大院・医・腫瘍放射線学)

【目的】 2008 年 4 月より口腔ケアに対して歯科医・医師・看護師・薬剤師によるチームでの連携を試みてきた. その結果, 試行錯誤する中で口腔ケアの方法が明確になりつつあり, 患者の症状の改善に寄与できた. 口腔ケア介入症例の分析を行い, 質の高いケアの実践方法について検討する. 【方法】 2008 年 4 月～8 月末日迄の口腔ケア記録をもとに, 内容・方法などを分析する. 【結果】 患者総数: 21 名 介入日数: 6～66 日 (平均 17.2

日) 口腔内の状態の変化: 改善 16 名 不変 5 名 悪化 0 名 【結語】 今回の試みにより, 口腔ケアに対する技術の向上や意識の拡大が図れ, 病棟内での口腔ケアに対する関心も高まった. しかし, システム化されていないため, ケア方法が統一できない現状もある. 今後, 当病棟に適した口腔ケアの基準を確立することで, 更なる QOL の向上を課題としたい.

## 〈基調講演〉

座長 高橋 健夫 (群馬大院・医・腫瘍放射線学)

## 14. 群馬大学における重粒子線治療プロジェクト: 第 3 報

大野 達也, 田代 睦, 遊佐 顕

鳥飼 幸太, 島田 博文, 石居 隆義

小屋 順一, 加藤 弘之, 田巻 倫明

山田 聡, 中野 隆史, 小澤 静司

(群馬大・重粒子線医学研究センター)

群馬大学における重粒子線治療プロジェクトの進捗状況について報告する. 【実施体制】 平成 21 年度後半の治療開始に向けて, 群馬大学では群馬県立がんセンターやがん診療連携拠点病院の医師と連携して重粒子線治療検討委員会および臓器別専門部会を開催し, プロトコルの作成を進めている. 今年度中には肺 (I 期), 前立腺, 肝臓を, また来年度には頭頸部, 骨軟部, 直腸癌術後再発などのプロトコルを完成させる予定である. これらの疾患はいずれも放射線医学総合研究所において炭素イオン線治療の安全性や有効性が確認された疾患であり, 群馬大学でも先進医療として行う予定である. 【施設工事の進行状況】 重粒子線照射施設は, 建屋の躯体が出来上がり内装や外装工事の仕上げ段階となっている. 内部には続々と治療装置が運び込まれており, 今後, 装置の組立やビーム調整, アクセプタンス, コミッショニングなどが予定されている.